

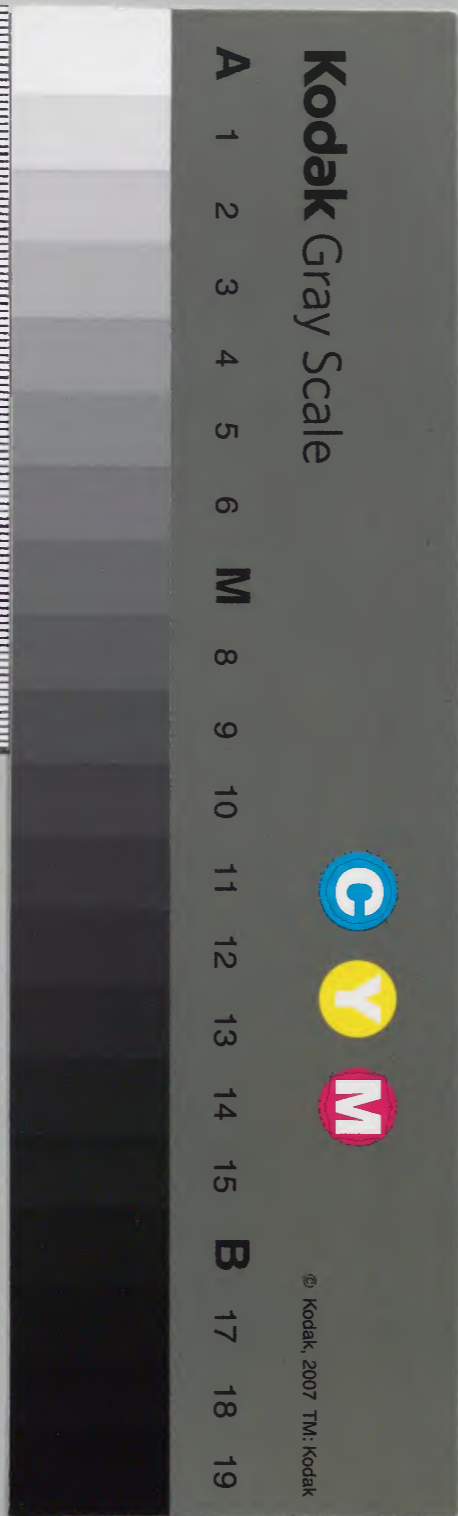
羣書類從

百六十六

| | | | |
|------|------|-----|------|
| 和書門類 | 九五九號 | 二四函 | 六七〇册 |
|------|------|-----|------|

| | | | | |
|------|-----|------|-----|-----|
| 內閣文庫 | 和書類 | 九五九號 | 二四函 | 一六架 |
|------|-----|------|-----|-----|

| | | |
|------|-----------|------|
| 內閣文庫 | | |
| 番號 | 和 | 9595 |
| 冊數 | 670 (224) | |
| 函號 | 214 | 39 |



卷之六 七首

和歌部廿一

鳥山殿七首

作者

詩部

漢詩五首

漢詩八首

漢詩六首

漢詩四首

檢校部乙一集

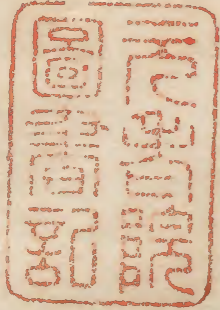
九首

十三首

八首

四首

三首



羣書類從卷第百六十六

和歌部廿一

龜山殿七百首

作者

彈正親王

藤原大納言

富小路藤原大納言

中御門藤原大納言

檢校保己一集

九十六首 勅撰世已首齊清撰十八首
藤原大納言點四十七首

十三首 勅撰
後一

八十首 勅撰十一首
清權七首

四十九首 勅撰六首
後八

三十六首 勅撰十四首
清撰七首
後十六

中納言頭覺入道

富小路李雄前中納言

侍從中納言為藤

六條前中納言有忠

右田隆長前中納言

左大辨公明宰相

源三位親教

右兵衛督為定

忠守朝臣

為親朝臣

六十二首勅女清撰

十九首勅三

六十八首勅十九

三十六首勅五

二十四首勅一

二十四首勅五

三十一首勅一

三十五首勅六清撰二

十二首勅一

二十首勅二

為明朝臣

二十首勅三

有光朝臣

九首勅一

經季

八首勅二

為冬

十六首勅三清撰一

以通朝臣

三首勅一

光吉

十九首勅三清撰三

道我法師

十九首勅二清撰一

討里丸

七首勅二

祇壽丸

四首勅二

春百三十首

立春天

沖制取

久しあふのか山守めを春を心ふるの春水はけ

前藤大納言

立春日

且門の山乃端くぬき春たつ日影けさるか

立春水

六條前中納言

春ことにくむすなぬ水ハ春をぬきたるあふん

早春山

侍従中納言

高砂尾上の松は沙なりのまきまこれまはさるふり

早春園

富小路花大納言

川のまはるとみさるん春を心ふるの春水はけ

子日松

中納言入道

いくふ年春うよひの限あく松とさあはる子日

早春

先春

亀山秋の松を春とてかきぬきよしの山とみさる

野暮

為親右衛門

春暮るる川未いほくともみさるにゆぬむさうの春

園霞

侍従中納言

越てゆく限りも春は春坂や露も雲とみさる山路を

橋暮

前坂大納言

朽木けりあゝ此福にいとあはれにすむまゝに

江島 中津門前大納言

あゝまじけ小経波入に乃あけ乍のいまは島のとらあが

河震 侍従中納言

大の川若き此波のいせもあゝまゝにいとあはれに

海島 六條前中納言

まゝにけうらゝの海を志すまゝにいとあはれに

湖震 大次舟宰相

あゝにけうらゝの春の若きあけをいとあはれに

鴻島 前藤大納言

とらゝと春の海を志すまゝにいとあはれに

渡島 源三位

高浪の初来もなほいとあはれに

谷島 針里丸

谷陰もあゝまじけいづれもいとあはれに

雪中島 為定船長

島はあゝ福のいづれもいとあはれに

曉島 前藤大納言

福のあゝまじけをまじけの志けをいとあはれに

里島 津製

春さぬと今やさる心里人も初春に洗く草の心

竹鷲 浄製

昔世の初春は竹の丈や人よりさるや

野若菜 前藤大納言

名はあつるをさるとさる春日の野もはゆるせもさるは

波若菜 為親朝臣

里人さあさるはあはれはさるはあはれはさるは

田若菜 為明朝臣

我君はさるはさるはさるはさるはさるは

岡残雪 吉田前中納言

外よりさるはさるはさるはさるはさるは

木残雪 為定朝臣

初よりさるはさるはさるはさるはさるは

餘雪風 経季

消るる尾上の言に風をさるはさるはさるは

餘雪少 前夜大納言

立消るるあるあはれに二月やけり少くはさるは

梅雪 同

梅さるに消るるはさるはさるはさるはさるは

梅風 同

うけしり新瑞梅の白ひと白むもとくともさき風

秋梅

前藤大細言

梅は花をみんごとくもさき風のやも袖よりうきとむん

宮家梅

侍製

梅は白きまへへ山里も物うのひとさうくひともさく

養梅

同

我家は梅咲ぬといひくとも人ぬを花きく新風

梅移水

同

去風のうとさきまへへ各眩ぬのみさぬ梅り下みの

梅薫神

侍従中細言

さきひしく白ひとさき梅のさ神を風のやもさき

折梅

経季

山人乃白ひとさき梅はなをさき神よりさきさき

紅梅

中細言入道

白妙はさきさき紅のさき梅のつらさきさき

落梅

同

みさきふ花乃後をくさきゆきまへ下陰さき庭の池さ

柳家

侍従中細言

青柳の系はみさきさき風よむさきさき

池柳

彈正親王

枝とそえ波とと深き柳の糸よと吹る庭 ちんいさあ

行路柳

中納言入道

おんこれなりくくひあそ目にあしやくくるま柳の糸

若菜

侍製

い川のまにやくもふえぬ春目野のめも萌ゆるまはあま

早蕨

祇者丸

春さぬとのれちやくひ下もえて路はびるはとけやまぬん

山春月

光吉

あひむと長草よすむむらうびたけ乃山れとるま春の月

園春月

富小路前大納言

島は神は流をいそくあけやと地雲はとくやまは月影

江春月

前藤大納言

影うつと波もたわらぬ難波の入りとけしつとむ月影

春曉月

侍従中納言

別つる雲とともみえん山端のよきは雲はあつる月うけ

春月幽

忠守朝臣

いほはなにいさふくまふはありぬる雲はうららのるは春の月

夕春面

侍従中納言

春面よあもゆく来に多るまきりゆりまきり

野春面

侍製

今いくら花火此野もこらゆんあふといそくまぬは

春の唐春雨 市制

ふとむをれ海もあつそふあれ唐の初春もつるさ

春駒 雷小路前中細云

とのまやふらふしよぬあふに人かつあぬ髪之の春駒

雉 為定船長

あれあふとふあふとまれ日にあるとそあぬ雉子あ

雲雀 為冬

まれ野のまこつるあふあふあふあふあふあふあ

海天知春 同

おひつりあふのころあ天は海を舟びよりゆくまれ

花帰 同

むと雲霞のああふ春あふのまれあふあふあふあ

海人連雲 花藤大納言

あふあふあふあふあふあふあふあふあふあふあ

海帰 市制

春こといあふあふあふあふあふあふあふあふあ

遠海 同

あふあふあふあふあふあふあふあふあふあふあ

野遊 同

白妙れ神いあよしはもまて春日とくは野へのまらん

遊系

御製

春日野の駒あまふみさくせはあはれまにあをふいとゆ

待紀

富小路前大納言

あこねよりま川白雲は立田山をまるとみせもねとまう

秋紀

侍従中納言

あつ魚の伊代のあまも機花挿て今年あまともうし海

尋紀

前左大納言

あぬやと越ゆけとも山機花あふひるまきくみもな

初紀

源三候

けさみまは初あはれし志くまはれりあはれりのみまは山

見紀

御製

春こといさねまうのりさくくまをいとあまらるれさ人

玩花

彈正親王

山さくもことわねえさくも風をそいとあまらるれさ人

お紀

中御門前大納言

ちぬまはあまらるれ機花あはれはゆせえらるれゆあを

吏紀

為定相長

いとくあぬも山さくくまをいとあまらるれさ人のけうね

曉紀

忠守相長

神のこゝろに候とて入ては殿前ふいとあやうなる事

山より登りては殿前へ上りて候とてあやうなる事

夕花 侍従中納言

都とみおのり候とてあやうなる事

みぬまに候とてあやうなる事

山花 同

かゝる事とてあやうなる事

六條前中納言

岩花

今をみる谷は都来の横都風

大弁宰相

旅人のこゝろにつけとてあやうなる事

杜都 侍従中納言

所居城のの精の事とてあやうなる事

野花 富小路前大納言

こゝろとてあやうなる事

園花 侍制

山花

山花

山花

山花

山花

庭坂やいはけもあまさらり指はゆるるをねえくま

遊苑

為定軒伝

みまねのほれ遊つせまたえんもふとむとみる哉

禁中苑

忠守軒伝

九条御堂の櫻まらの代はらうとく人んまををさう紀

社歌苑

為明軒伝

さとしの風よあ人を福多之神れいりたさけるさうふ

古寺苑

中津門前大納言

吹風ものうらさきとふ袖ぬ山花のさやや粧いのらん

おた苑

吉田前中納言

さうりとまらりとも誰さうらんとあかあかあまあまの里

里苑

清製

住吉城を里との苑さうら松りささひてさうらささう

山家苑

富小路前大納言

あしはらやちん山姥のふねよりあまを人えまちえん

庭苑

中納言入道

あまをささひてささけ連たらちのまよとさうせぬ庭の割

閑居苑

六條前中納言

人ともぬまや若れ宿の花我身をよりあまとこねしふ連

花雲

吉田前中納言

海人といはらのゆきとも最乃妻花とよとめとよとめとよとめ

入る花音 藤大綱言

花日のみ様りきりて風とよとめとよとめとよとめとよとめ

花梢 光吉

おのふして山ありしれあぬ目に花のさくらこのとうめとよとめ

花枝 為親船長

こまろまあひのあし咲花枝とあまめ法代のま風

花中 前後大綱言

さくらゆきとめとめとめとめとめとめとめとめとめとめとめ

花根 道我法師

山橋ありあちまの橋も中も花とよとめとよとめとよとめ

花拂 大舟宰相

橋花君のうさふおれを方代り花たりといひ

花手向 計里丸

分れ山と花れとよとめとめとめとめとめとめとめとめ

花麻 道我法師

せめいふとぬさもさりあ人と散花と神も今もさつせとめとめ

花被 光吉

杖もも移らふさうを人さすいふは深しとよとめとよとめとよとめ

花衣 為明船長

あつこの分りたるお花はるるをよとて山路は日数へよきり

花鏡

為定朝臣

うたふとらける鏡の池よりけりやと志せし花はるる

花錦

計里丸

まよふたつとらくせ風吹は花は海のみてまよとする

花白

有光朝臣

白くはふとせやとて山路は来れりとならるまよはるる

花色

兼後大納言

山さくらあつたお花は色とみそつとらける我もむね

花使

光吉

お花の風のたふりもははるる人よとまよつとまよはるる

花玉

富小路兼中納言

もよひよふとてはまよとにら花はるる人庭のよき

花面彩

六條兼中納言

お花のけとめとあるまよはるる花はるる梅のよき

花形見

中納言入道

雲條のよきふとらそとまよぬ若の種のみよき

花惜

兼後大納言

そよらそ教るる花は面彩のよき

花

中納言入道

散射たるくらのちをよそとくも物るゆき身とかなもけ
殘花 富小路前大畑云

今八身にそよるまはしきこけ一木うねもふりある世
苗代 沖製

せとらる苗代をたおわらうるや人のこゝ路ありん
魅 富小路前大畑云

うねまはしと絶えおと池ありおちけおちけありん
擲躑 祇壽丸

うすく固形小さける岩はれいこねとまはせとみ
杜若 前後大畑云

咲ぬはらほほする池のうらつとことねお花をいさし
離秋冬 大井宰相

おちけおちけとくま風一あもこちてよちん山
夕秋冬 沖製

咲けく岩の山をけいんてあまふゆぬむのゆあみ
河秋冬 為親朝臣

とくあまをまよとふまを野川波うり岩れ山よ
里秋冬 富小路前大畑云

さつとといえんも人よとまを里れあまこち山よ
離秋冬 道我法師

卷百六十一 十三

くまのこゝろをいふにや
池原 富士路前大納言

嘆よりの底よりつらふ
江原 侍従中納言

江原 侍従中納言

松うゑにせしめしむる
浦原 源三位

浦原 源三位

あまののちかきしむる
春原 為定納言

春原 為定納言

伯のにれ春原のいへん
松藤 中納言大納言

松藤 中納言大納言

起う身に又もやある
春原 佛製

春原 佛製

起う身に又もやある
春原 佛製

春原 佛製

有明のつらさやよひ
春原 佛製

春原 佛製

今更なる日数志す
三月 中納言入道

三月 中納言入道

隈くあつてはるもや
三月 佛製

三月 佛製

一年ふ三月とある時ふとゆふひまはれ等のゆふ^ひま

僻業題三十八首

為世

夏百首

首夏

侍従中納言

春とのみねをさすまきふもさきあ夏やけいさひぬ

相更衣

為明相后

よとくにけきけきとさひいひてゆきくうるむそめの神

信更衣

經季

あふうるむれは波り移りうとまはれ形んと程志くふうね

餘衣

中侍門前大納言

ちりりころむあふねう夏山はき茶う下にゆふ志う雲

新樹

右田前中納言

むさくしむらりさめあしまう枝のおおみりけ志けるまふ

夕卯衣

前夜大納言

山嶺を夕ふまことほけれのまうねまうりに月やみうん

夜卯衣

為親相后

夏はのなはらぬ月影をかさひも埋むやとのうらむ

河卯衣

侍従中納言

山嶺乃のなはらぬくとけりうり河波よさける卯衣

行路卯衣

先衣

ちるあふまけりな法もあるまをま道なるまきさける卯衣

山家卯花

中納言入道

むすむ山のこゝろにいふくやと卯花のりみ

葵

前藤大納言

と流るるはけしむし昔とハ神もすもるもり

待郭

市製

郭といはまゝしつまつらふん秘多こむやふ

為時島

侍従中納言

一みもつてとせよ皇女のや時島いけなるん

人傳郭

富小路前中納言

かこぬも我といさうん時島人のつる

始開郭

市製

時島つとハ秘多こむも此をまゝに誰里よ

郭と末遍

忠守朝臣

つとにのむ秘多秘多おむん人傳さくや

月前郭

前後大納言

つとにのむハさくの時島乃月よふ

雲外郭

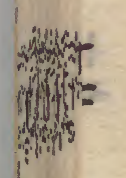
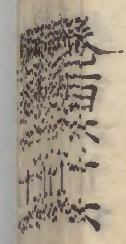
同

つとにのむさくやをさるるまゝ

雨中郭

有光朝臣

つとにのむさくや時島をさるるまゝ



暁時鳥 亦後大納言

暁時鳥 亦後大納言

曙時鳥 中納言入道

暁時鳥 亦後大納言

朝時鳥 為親朝臣

暁時鳥 亦後大納言

夕時鳥 前藤大納言

暁時鳥 亦後大納言

夜時鳥 中納言入道

暁時鳥 亦後大納言

山部 為親朝臣

暁時鳥 亦後大納言

杜時鳥 道我法布

暁時鳥 亦後大納言

岡時鳥 六條前中納言

暁時鳥 亦後大納言

野時鳥 中納言入道

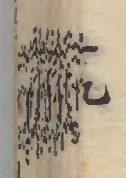
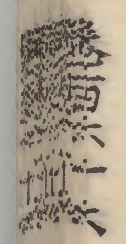
暁時鳥 亦後大納言

東時鳥 市制部

暁時鳥 亦後大納言

園時多 前藤大地云
みとふ記して事となく人にもしりとも
浦時多 富小路前中絶云
志知しきまはるるや時多んはくはとまの浦人
波時鳥 為定知信
いひはくやととわのし時多とのいふりといふ
後中時多 中絶云入道
その初めんはくは愛路六中絶云
獨園時多 中絶云
人志多ん我なりといややくさ人なり初めんはくは

時多ゆ方 富小路前大地云
ゆ方と志のひやくは時多たそいとゆにかり
郭の幽 同
初めんはくは郭のゆきとも後とけしとも
田家早苗 中絶云
山里は田れおのみことえんはくは早苗云
志早苗 道我法本
かとうし西の海は早苗云山里は田れおのみこと
早苗多 前藤大地云
かとうし西の海は早苗云山里は田れおのみこと



浪菖蒲 源三位

若う代りあうくはうたはあとして浪あやめの神を記す

若菖蒲 若後大納言

あやめを伴とぬらん月夜をうらみあふくはうたはあやめ

若菖蒲 同

たう神のをたあは神を記す月夜をうらみあふくはうたはあやめ

暁盧橘

中制家

暁のまゝに白ふ立花はをり録とたのあつと知る

暁橘風

若藤大納言

むらさき橘のゆきをよめくはうたはあやめ神のを記す

友御盧橘

若冬

友御のゆきをうらみせはゆきはる若あやめくはうたはあやめ

橘

若親長

あやめくはうたはあやめくはうたはあやめくはうたはあやめ

夜月雨

若大井宰相

あやめくはうたはあやめくはうたはあやめくはうたはあやめ

山月夜

中制家

日教へしかさるるまはあやめくはうたはあやめくはうたはあやめ

松月夜

若田中納言

宮東の松山はうらみくはうたはあやめくはうたはあやめ

梅五月ぬ

富小路前中絶云

人いさうよひやまはる五月ぬれりてをうたう此の梅

江五月雨

先吉

岸は紫波やこゝろ入はくもさうらぬ五月ぬれりて

跡五月雨

源三位

五月ぬれりてまほしき山形めしと入るる布衣跡

河五月ぬ

中津川前大絶云

五月ぬれりてまほしき山形めしと入るる布衣跡

湖五月雨

為冬

五月ぬれりてまほしき山形めしと入るる布衣跡

浦五月雨

侍従中絶云

浦乃浦やあまれ糸の糸まじりてまほしき山形めしと入るる布衣跡

友完五月雨

為定相伝

五月ぬれりてまほしき山形めしと入るる布衣跡

名鶴

侍従中絶云

五月ぬれりてまほしき山形めしと入るる布衣跡

夏秋

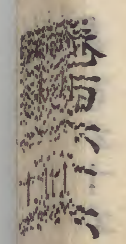
富小路前大絶云

五月ぬれりてまほしき山形めしと入るる布衣跡

雲間五月

市制

五月ぬれりてまほしき山形めしと入るる布衣跡



多邊夏月

御製

ふゆのよもあま秋のふもよも月かましくやるあを

夏月似秋

中納言入道

衣袂り月とやうも秋のころあそいしくわも

夏月涼

六條前中納言

村雲のこえまはうす地影のう涼くあくる籠軒の月

夏月易明

寺製

ゆき音とさふもけうらあけのよむつ月の明やまを

夏月露

為定朝臣

らりあうて又やうもえん在あけのまうけとける志家

庭明露

為親朝臣

ふゆあけさこそはさきあけ日さひやうと秋のやまと梅子

夏月家

中納言入道

夏月あけをける志家あけまぬ秋をみま六さけり

杜夏草

侍従中納言

夏月あけも草也敷とて志けるこをまはるりか下草

野夏草

富小路前大納言

かちんわつるも志き吹風の撫すふる初くあけあま

庭夏草

藤藤大納言

夏月あけの中も志き我道のかさる法と誰うつま

夜夏草

御製

山田より人々あまぬきやん城者志志多き夜草夏くこ

夏山

中納言入道

いふもいふもいふもいふもいふもいふもいふもいふも

夏野

討里丸

里今もあはれなるもいふもいふもいふもいふもいふも

照射

幕後大納言

程程のあつらにほろろいふもいふもいふもいふもいふも

鶴川

為定右大臣

大井田よりいふもいふもいふもいふもいふもいふもいふも

夜螢

侍従中納言

いふもいふもいふもいふもいふもいふもいふもいふも

橋邊

御製

夏草いふもいふもいふもいふもいふもいふもいふもいふも

あ上草

中納言大納言

あつらいふもいふもいふもいふもいふもいふもいふもいふも

池邊

中納言入道

いふもいふもいふもいふもいふもいふもいふもいふも

江邊

御製

草火はく煙いふもいふもいふもいふもいふもいふもいふもいふも

沢屋

富小路前中納言

飛屋さく人のあはれはきこもをえしも秋のよしのついで

浦屋

六條前中納言

簀のこく浦屋火はあつくも波もゆるやわらうあつん

多屋

源三位

よもすしきさくもはせうりはてま紫のあはれうやあつん

黄似家

為定朝臣

飛屋起えんハあまも人とも野原はあつと程やうて

黄似玉

忠守朝臣

いせの海やうり流の夕波しをわらむハやうなりを

牧造火

六條前中納言

いそ程さくも里は夕燦まきたしとふるかやうとのひ

夕屋

富小路前中納言

咲てさく人よとる連夕魚はあハ中さくさくあま

蓮

前藤大納言

吹風より人よとる連のさくはえんあうり流はあつなうけ

水室

侍従中納言

夏衣さくも神やうり吹風もさゆをむらり

夕立風

中侍前中納言

宵よりたれを志さうり吹風のよむとみ連はさくあま

夕立雲

御製

かろ神も雲此のつよありぬんよれすきゆく夕立のそ

山夕立

中納言入道

あり神の青い言雄の山嵐よ面よりも程雲それし川

河夕立

兼後大納言

一志よりやまらぬ志つる夕立のすきよはる谷川あり

夕立早道

同

かきく運しやえんたる山端よわるとみつる夕立の雲

杜蟬

中納言入道

蟬の音聞けハ秋こそいそぐ運ハ川た紫社のおきと

樹陰蟬

有光朝臣

夏ふくまけの木陰のすきゆふを運しと夜の中風

泉

左大臣宰相

ともしまみ風よすそ多秋よとも共せり運しと

夕涼

中納言入道

小倉山松の木陰のすきゆふを運しと秋を

夕涼風

右田前中納言

扇よもワるるありし風を秋やゆふとあそびる

夕涼忘夏

為冬

ワる運しハ秋よそあふくふるも運しとあそびる

六月秋

伊後川ゆせうりうあさ秋のころは秋風を秋の

秋百三十首

五秋朝

今朝のまに秋のまに夏衣一秋のまに秋のまに

初秋風

恒季

とらう秋の葉よりも秋風のまに秋のまに

初秋意

前後大納言

初秋の意は秋の意は秋の意は秋の意は

待七夕

同

あまのこもあまのこ七夕のまにまに秋のまに

七夕妻

為定朝臣

あまのこもあまのこ七夕のまにまに秋のまに

七夕橋

前後大納言

あまのこもあまのこ七夕のまにまに秋のまに

七夕衣

同

あまのこもあまのこ七夕のまにまに秋のまに

七夕歌

伊製

あまのこもあまのこ七夕のまにまに秋のまに

七夕別

源三位

七夕は夏の夜もうらやまをばけさるるにこそとてさるるん

七夕帖

御製

七夕は百機をわさひしも今ねとぬの神を法めさる

曉露

前後大納言

ま深より程を志るる神とてはなやまの心をさる

朝露

道教法師

あつとよほほひもこゝろも旅するあつとよほほひの神は秋風を吹

夕露

中納言入道

身と秋の涙やあはれをくさる夕のまはれて神はせとま

秋露

前後大納言

あや程をさへさるる野原あつとよほほひの神は

野露

同

こぬ人ともゆくはけし程とてさるるあつとよほほひの神は

徑露

御製

諸人も道りあつとよほほひの神は秋のまろふさけし

庭露

前後大納言

あはれを秋といふより程とてはなやまの心をさる

秋風

中納言入道

あつとよほほひの神はあつとよほほひの神はあつとよほほひ

江秋

先古

やにいづる入江の萩のうらまふは遠ひもよそぬ秋の浦風

野萩 中津門前大納言

萩の秋嘆をめしよりま憐れのこれ中津門前大納言にぬまは日あけ

河萩 大弁宰相

と秋花ちかき物み約とめて秋をさし野萩の赤門

庭萩 中納言入道

い秋えにむれ神をもぬりくる秋ある意れよこの心家

女郎社藤風 為定朝臣

心とこにおむもあけ女郎社おやる野へハ秋風をさ

野女郎社 富小路前大納言

歳暮の秋のさ野の女郎社つらなるをさきてこの心

行路萩 為定朝臣

旅人の野のゆさか志けををまあけま移れおすい

系萩 清製

ワきさあけお萩の志すさかにいづる秋をゆくをのゆ

荊萱 中納言入道

我神のをり滅をのるをれおひひさきて家そさあけ

蘭 侍従中納言

嘆よりのたぬさけしちかきささきとあ白くさる

槿 前大納言

於家此をぬきまかりとさかりをしまり野のり

野中 侍従中納言

此ふそさかたはいとけりしとてささくはありそ

系中 有光朝臣

秋さむある野系此せよぬけぬとてささくはありそ

後中 侍従中納言

よそかきかたしやとてささくはありそ

庭中 前中納言

野系ある家此庭の夕家にてささくはありそ

庭中 中納言入道

をてすし庭に議事申す

園中 六條前中納言

秋のふりも秋風もさむくありまた秋はありそ

園中 同

山かけいま何とそめぬゆふはく日さるやそへ乃ね中のこと

雲間初雁 前藤大納言

おまきおまきとあつてささくはありそ

山初雁 富小路前中納言

海山まそりぬじし令れとてささくはありそ

初中 中納言入道

帝はうらむまの玉衣をみまを神も
遠初戸の富小路前大納言

まらえしとさうふみと村無はれさつとちれりおま

近初戸の道我法中

みりちをを記雲丹は信もたさうてさぬる初めりのを

初戸の為冬

秋風乃吹とせしまふとせとてさうとさう初めりのを

初戸の源三位

おと新はまきとる夕暮はれさうとひる初めりのを

朝麻の吉田前中納言

けさ小あつくとけさるる心程はまひりさうとさうと

夕麻の左大臣宰相

小男麻も書と恋しやの衣日もゆふに初めりのを

秋麻の富小路前大納言

妻こひりうみとて美音京秋を此風も麻をさうと

谷麻の為親朝臣

おひりの谷はけうひけた小あまの書恋し麻をさうと

岡麻の侍従中納言

唱麻はりの書恋し難面てさうとひる小社風をさうと

海邊麻の同

波路瀉せり舟はやくうしとくもや志く小男麻枝を

田麻あま富小路前大納言あま

もろ人のまゝらむやと秋の田代居のあまらに麻をかくる

鶉うし六條前中納言あま

うまある激りあやのらん秋のうらみれらんをせむ

鴨うま為明納言あま

吳竹の伏見乃伏し物と鴨の麻もよむし秋をせむ

秋田あき中津門前大納言あま

早くとこの田代稲葉あまはさかあまよらる秋乃夕風

秋夕あき中納言入道あま

は秋ハ智とそてそおけさほるむつよりうさ夕をせむ

秋雨あき同あま

我をゆりたまふ才とる神あることとや秋の材由れ

閑房あま同あま

関れ戸をあけや志ぬん秋房はかよとむらあま坂乃山

河房あま同あま

かみくる井せねみえはたの川房はあうと考をゆりし

浦房あま市製あま

金ともあはれともせぬ房は絶まらゆく念さしめぬ浦は舟人

駒込あま中納言入道あま

今もかゝ絶せぬおろしこと此秋のあつた月乃ま

八月十五夜 祇壽丸

久しきおろしを井すむ月も秋乃をかくれりともひる

夕月 前後大納言

ましましおろしをまゝぬ山姥とむらうひくしゆる月うね

夜月 侍従中納言

い秋えし秋ハことよひとを言れりぬことい月とみる那

暁月 右光船長

元ハまゝおろしをぬくころころしのかとふのころる月乃月

山月 前藤大納言

まゝおろしと秋といふ志けるあつた秋乃と月

炭月 六條前中納言

いとおろしをむらりをほまするゆの秋ゆの秋の秋

谷月 光吉

流行とこのころしむ月秋の女ころる谷川をぬ

松月 同

月のすゝ泉はまはまよとらぬ代りなほしをむ

花月 為定船長

秋てあつた人あつたあつた秋をわくこれ秋を秋の月

杜月 中河前大納言

身と志は六の如く新とあるは其の處は月とあり

野月 中納言入道

身と志は六の如く新とあるは其の處は月とあり

京月 同

秋のよ小野の志乃東とく前にあまのしやる月が新

雲月 御製

若よりすまは雲とせるとあり秋八月秋のありとあり

後月 道我法

ワヤとあり小野のありとあり秋ありとありとありとあり

梅月 中納言大納言

志乃のなるは雲とせるとあり秋ありとありとあり

水邊月 為明朝臣

志乃のなるは雲とせるとあり秋ありとありとあり

池月 侍従中納言

志乃のなるは雲とせるとあり秋ありとありとあり

秋月 中納言大納言

秋風やみとせるとあり秋ありとありとあり

浪月 侍従中納言

志乃のなるは雲とせるとあり秋ありとありとあり

江月 前夜大納言

秋乃秋ハ初ヨリもささく任の深月とて候しそ松風を吹

流月 忠守朝臣

白玉の如くみえかあ尾の流津若のよもろく秋月を

流月 侍従中絶云

流津若の流津若とあけぬよれまの月を

流月 同

あしといしこそや流津若波まの月の如く

湖月 為親朝臣

さ波のよなる浦に秋風とてまをさし月とて

浦月 御製

ぬるる程の秋のよれと浦の月もかく

流月 侍従中絶云

よれよれまの月やとて八百日やとて

流月 御製

浦風もあは波のよけはとて月あかけとて

流月 忠守朝臣

浦風小秋もささく白波のよもろく

流月 源三位

塩風小秋もささく白波のよもろく

流月 六條中絶云

百六十六

三十三

今のかさきさき鳴り秋は月をせぬかけは君のこころ
 計月深月 為定朝臣
 難波のさかろやうもいそまて志平ひよき花月の歌を
 酒月 源三位
 海とまれば波はくはれぬくまの月とみど
 瀬川渡月 為明朝臣
 春里は逢瀬はさく天門このもろに八月をあらう歌
 田月 富小路前大納言
 あらひやう小田原の店に稲庭家とく麻のゆき月歌
 朝月 同

一 毛流もにわたりととくも君よむ花はこころ秋のよは月
 二 禁中月 為定朝臣
 三人よはあま袖と歌と花にけりうの月と花のよは月
 社月 中侍前大納言
 君よとさうしといのこさき山月よ子年花秋をちさうとん
 古寺月 道我法師
 何れも我古寺は若ましうの月と秋のよは月
 月と古月 若田前中納言
 七とて又うりあ々の月とむくはあさやさうとん
 村月 同

いよのゆりをり村に秋の秋の波まよけし月やまひん

まに里月いよのゆりの中細く入道

月をよしてはせしむふらふらむ枝の里もほろろれよ

山家月いよのゆり 中製

私をよし月もりし秋のすなへん月もゆりぬる山家

庭月いよのゆり 為冬

むまひとく紫花居の志とふ月をぬる月をよすま

庭月いよのゆり た大舟宰相

色うたる庭に花芽生秋更し秋の月をよすま

井月いよのゆり 同

山の井にむすむす秋のすなへん月

里月いよのゆり 右田前中納言

山里に袖の板まよきぬる月をよすま

隣月いよのゆり 為明朝臣

魚ささる宿もみぬあきほく月をよすま

閑居月いよのゆり 忠守朝臣

ささるぬ花を月の秋ありる月をよすま

船月いよのゆり 富小路前中納言

入るにささる月清見海月に出る月をよすま

惜月いよのゆり 同

秋をへてゆく秋のひびく我ともささく山のたけ月
 へと里持夜 花後大納言
 とけいまの春を遠く誰里の秋をたけなうらぬさるる心
 聞持夜 中侍大納言
 夜うけをといふ時一もつ秋をもたけ納言のあやまをたけ
 遠持夜 侍製
 里人さすもたぬまぬと衣れ絶まのうせそとこといふりける
 秋をへてゆく秋のひびく我ともささく山のたけ月
 野分 同

あつとみく種ありて花はさの野分は風よまの海を
 葛 同
 家あつとささくさうの秋風の吹とらむの野への葛を絶
 裁葉 六條中納言
 秋色極くちさくやびとまのささくさの秋の樹さく
 露 侍製
 ちさくささくさの年にはゆりもやせぬ葉れ樹とある心
 初紅葉 六條中納言

ふれし西を秋とあやまし神志不もむるりみちるるん

山紅葉 中津川前大納言

のみち紫花入のうとま田ぶらめをめしと程志らるん

岡紅葉 計里丸

夕日さみをののみち深をくをさうろくゆく神時面を

杜紅葉 為定朝臣

いひりる志をきめえ非さひの杜はまの志のままよりゆ

河紅葉 大井宰相

大井若女あとしひいといみちやいまも清幸まらるん

松岡紅葉 為冬

知らるる入松の女をけしきささしゆさるもみち色に

雨後紅葉 富小路前大納言

晴れくる日影もみちいむ思ふ道とめらるる本をけしきわしれ程

紅葉映日 右田前中納言

時がまも移るる色は煙のいひをまて入日け女ののちらえ

紅葉如霧 侍従中納言

り余の紫はま田の川のみちあやめかきひしとあふんを

暮秋雲 同

月をかつのさるも今をぬ村まよとていしく村をさるる

暮秋霜 富小路前中納言

芦の根はたき茶をもちうらや秋のさかりと比する 夕暮イ

九月夜曉

御製

朽れゆくも今注ぎぬあり曉ののびとく 夕暮イ

冬百首

僻筆點三十首

為世

秋冬曉

花藤大納言

吹おろしと暮れあはれの暮はしと 夕暮イ

秋冬嵐

同

小倉山けさるたぐ松吹之福ありと 夕暮イ

初時雨

為冬

晴ふりやさしに夕を以初時雨ありぬ 夕暮イ

時雨雲

源三位

時雨は夕日ハもを山嵐とたえく 夕暮イ

風前時雨

侍従中納言

山さうみそぬのじて吹風あり 夕暮イ

山時雨

花藤大納言

神を月ををる雲もや 夕暮イ

岩時雨

同

あしゆのしほのしと雲と 夕暮イ

杜時雨

御製

花あつしと志のし 夕暮イ

冥時句

中津門前大納言

清見深き人の冥も知らぬ事と程神めりとも夕志を事う水

星時雨

中納言入夜

まよふ心とまじりのちろろれを志くく雲は道まゆりやと

圓時句

富小路前大納言

祇堂をふ屋に板まの村時句月影あつてゆるもいとをん

時句

六條前中納言

はるるく涙ハ神ふ街まふもゆるもさるむりしと運り

曉時句

源三位

風ふちる木枝より程曉の祇堂よりゆると我をそふ程

夕時句

六條前中納言

夕暮ハ又さそひゆあしをふ人へさるぬけこの木枝を

夜時句

吉田前中納言

山里にさそふあしは音たふ木枝ゆふは夏もむとをん

落葉時句

大井宰相

色りちるりみちとよも吹さく風のまゝあり村時句

落葉時句

侍後中納言

そたふさつ杜の木枝に神を月あきとゆふとむむ時句

谷時句

為定朝臣

谷物うたふ木枝をうたひりん程夕風よちるもゆるり

卷百六十六

三十九

路落葉

富小路前中納言

枯とハさるあしと山路まをりてはゆるる木はれを

河落葉

為定期后

立田川にぬるるをとありては紅葉をみる流はせむ

橋落葉

前左大臣言

ちるるをみればけしむるをよみて木の葉は入とわくるや

庭落葉

富小路前大納言

枯れをみればいとふるるをみる庭のさうとと秋とふるま

野霜

忠守后言

野のころ野へのま葉もあはれのとあうりやまればむすむ

田霜

中納言入道

秋とらり蒔田のころよくまればはるるよ清ぬるる

庭霜

侍制

庭のおもはる月の白ゆふはるるをみればとけぬま

山落葉

彈正親王

山にゆけし人あはれとてまのまのまをみればとて

篠霜

侍従中納言

竹の葉もあはれとてまのまのまをみればとて

谷寒州

彈正親王

山もみればとてあはれとてまのまのまをみればとて

杜をま 中納言入道
 この際ちりいせの杜のつらまはれ中納言がけしおれを
 名をま 侍製
 五芝の庄原秋もれいよき葉のころをり中入を
 野をま 右田中納言
 秋のまよむしあふみろ武蔵州のまはあふりおれ
 名をま 大弁宰相
 ちりあふれたのまよみろ小篠村のまはり
 池をま 侍製
 ちりあふれいよき葉のまはり池のまはり

江をま 同
 ちりあふれいよき葉のまはり
 水にま 中納言入道
 ちりあふれいよき葉のまはり
 ちりあふれいよき葉のまはり
 我々の竹はけ梅はけのちりあふれいよき葉のまはり
 湖をま 同
 ちりあふれいよき葉のまはり
 湖をま 侍従中納言
 ちりあふれいよき葉のまはり

田少

為明躬長

掛植少

淨製

さくまにけのをも抱ぬ之敷のまにをりる谷川のあ

松冬月

用

光をよ月のうつくしき道もせしつる川松を移さうし

ゆき月

古田前中細云

大井山にてもさる月影をそらりや程みく

冬夜月

淨製

月影もよのまにをそとくさゆらみそれあひひな

豊明部會

中細之入道

乙女子神つるこのます道ぬをれあひをれわし

寒夜子鳥

淨製

衆とをよとよれ山月とえほりしぬ乃るをよ子鳥

梅子鳥

有光朝長

更切やとるもさむ月影を交る梅よちるをふるん

渡子鳥

光吉

泉川をうとをよ月とえそあひへるあとりふくを

ゆき鳥

為定朝長

立波れまふもたかく交子鳥とよれしぬのさるを

浦子名 六條花中納言

浦子名 浦子名あるひもあふ浦とのみそく

暁水名 為定朝臣

新やとらぬの月と池名けりこころと鴨やふらん

池名鳥 侍従中納言

池名鳥 池名鳥あつむの浦ぬふくのうらもあつむと鴨と

江水名 為明朝臣

つひはははつとぬ友とたのしみにお入にぬきかき

中納言 道我法師

まよひていさふゆんをけぬら八十氏はらせけあふ

夜中納言 中納言入道

神ぬきてあふるむとけりくはりけり楊梅紫りまらん

朝霞 左大臣宰相 富小路大納言

い川こより教めらんかころりかたけけりあけかうらふ

朝霞 左大臣宰相 富小路大納言

音はまは志をさへさる運れりよまさとくさへてゆめあふ

竹葉 清制

頃るおの浦えらふとふとらけて竹の葉とよけあふ

六條殿 同

たのむあふ小條殿あまき二むすことあそみか

屋上夏... 河製...
 板心竹の板れりの世にうちおろけとゆゑあしむ
 別初者... 同...
 冬も... 富小路前大畑...
 あし... 為定...
 ... 富小路前中畑...
 山人の...

松者

彈正親王

... 白者... 松木に...
 杜者... 為定...
 ... 野者... 富小路前大畑...
 ... 関者... 花藤大畑...
 ... 松雷... 同...
 ...

...

...

湖雪

侍従中納言

此の海や少し波もうはれきて海も雪も山も雪も

浦雪

六條中納言

浦をくあまねくあつて雪も山も雪も

濱雪

侍従中納言

濱をくあまねくあつて雪も山も雪も

磯雪

為親朝臣

磯をくあまねくあつて雪も山も雪も

都雪

兼後大納言

都をくあまねくあつて雪も山も雪も

禁中雪

彈正親王

九重の雪もあつて雪も山も雪も

社雪

富小路中納言

社をくあまねくあつて雪も山も雪も

古寺雪

經季

古寺の雪もあつて雪も山も雪も

庭雪

為親朝臣

庭の雪もあつて雪も山も雪も

里雪

中津川中納言

里の雪もあつて雪も山も雪も

山家音

中津川前大畑云

ゆるりゆるり山乃たけつりけはよふたのび松乃音

田家音

市製

ふるふる田の稲の音とあゝと又りのをふとよみ

雨音

同

山里音のうらとあゝとあゝとあゝとあゝとあゝと

松音

同

清くも又涼はゆる松の音のささげささげに

竹音

同

あゝとあゝとあゝとあゝとあゝとあゝとあゝとあゝと

松音

同

三福山松の音のささげささげささげささげ

将場風

為明松音

夕暮六波のゆせ身にまはるの音を野城へ

夕音

中畑へ入道

いくはなとたかきおちさるる人あゝとあゝと

野音

六條前中畑云

くしゆるりあゝとあゝとあゝとあゝとあゝと

炭竈煙

前夜大畑云

冬夜をゆるり日と影とあゝとあゝとあゝとあゝと

遠産電

中津川前大納言

炉火

為明納言

神樂

白妙の若

佛名

此のころ衆もの

年月日

難波人

山家殿春

中納言入道

たごめりあけ

因岳兼春

因

おこえぬ今日

智後兼春

前左大納言

糸の若

惜哉言

右田前中納言

甲午あまの

路兼春

佛製

世中ふら

河原著

富士路前大納言

世とて人こそいそげ早速にやとあるあのをさへ岐

除敷

中納言入道

さへいそやう人々通行と物いふも二枚とありにおびひは

僻業點二十四首

為世

急百二十首

初巻

先春

あひとむつおふあるは夜とこのふ成ある人をあふ

巻末

為明朝后

いそやう人々通行と物いふも二枚とありにおびひは

不見巻

佛製

吹風のよとふいそげとつろにたふみぬ中に存するなる

見巻

佛製

あひとむつおふあるは夜とこのふ成ある人をあふ

不聞巻

有光朝后

いそやう人々通行と物いふも二枚とありにおびひは

聞巻

侍従中納言

あひとむつおふあるは夜とこのふ成ある人をあふ

祝巻

六條前中納言

あひとむつおふあるは夜とこのふ成ある人をあふ

為巻

侍従中納言

らへしむ秋の下陰ぬみまよひ教のたはゆさく人教とを

祈念 侍従中納言

日蓮上人の御まゝの神地を御志す繩のあつさうと

折念 同

念ふはこゝろはせめて世にあつた人のちつひき

弾心親王

にありせしむるとみんしはまゝに察すまふ念をよま

観念 為念

いふはつたあひかりのついでに我しことおつたあひ

頼念 前中納言

いふはつたあひかりのついでに我しことおつたあひ

不潔念 右田前中納言

偽のつくはつたあひかりのついでに我しことおつたあひ

思煩念 前藤大納言

いふはつたあひかりのついでに我しことおつたあひ

偽念 侍従中納言

あつたあひかりのついでに我しことおつたあひ

疑念 為念

あつたあひかりのついでに我しことおつたあひ

副念 富小路前大納言

あつとひいしぬ物とみよ海にまくりは後志路と

不遠志

為明朝臣

うねりよまゝにたふし名もくわさるるに中此路のこゑ

待志

津製

夕暮るとあまけとくまのつらみ此より六程とあつと

不來志

中津口前大船云

響のこゝろにひけと具波こちふるまへるるをこぢり

遠志

富小路前大船云

こゝろにひけと具波こちふるまへるるをこぢり

不來志

中船云入道

あつとぬあひのじやあひ川のあまをせはたもふけ

別志

為定船長

秋とよあまこゝろやえうらみうらたわもたら昔の平凡

途不遇志

為明朝臣

あつとぬあひのじやあひ川のあまをせはたもふけ

欲願志

為親船長

あつとぬあひのじやあひ川のあまをせはたもふけ

願志

為明船長

あつとぬあひのじやあひ川のあまをせはたもふけ

疎志

六條前中船云

御遺言に成副の御遺言に依りて年月日を記し

切意

富小路前中納言

為の御遺言に依りて後の世に對しての御遺言に依りて

驚意

前夜大納言

と云ふまゝに御遺言に依りての御遺言に依りて

増意

富小路前大納言

今ましりし御遺言に依りての御遺言に依りて

憂意

侍從中納言

早も御遺言に依りての御遺言に依りて

隱意

為親朝臣

おの世に於てある御遺言に依りての御遺言に依りて

争意

侍從中納言

ち知れぬ御遺言に依りての御遺言に依りて

獸意

御製

早も御遺言に依りての御遺言に依りて

悔意

源三位

弊の元來も御遺言に依りての御遺言に依りて

去意

侍從中納言

人志の御遺言に依りての御遺言に依りて

夏意

源三位

逢ことくふあまの道やとくあくも浦の音あつて照のつらき

秋恋

源三位イ 富小路兼中納言

あめしむも海よりのまきもや秋の夕焼くもあつたる

冬恋

源三位 富小路兼中納言

こげし福ぬ繋りもつと埋火あつてもさるる雲のさびり

暁恋

兼友大納言

あまの世あつしとくしを繋るあまのつらき暁もさし

秋恋

伊製

神よとあつと秋とさびのあつたつたあつたつた

晝恋

為親朝臣

あつた海の家とくしとくしとくしとくしとくしとくしとくしとくし

夕恋

六條兼中納言

いふせえあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

夜恋

兼友大納言

あつたことこれひ神よのあつたあつたあつたあつたあつたあつた

恋恋

中納言入道

今よもあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

初恋

有光朝臣

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

遠恋

兼友大納言

一節ふたのふをせめりくともらあまはふん

近志 為明相言

かきつりまら中と若くは海さしぬ中はらひ

臆志 吉田前中納言

若うたハあまゆをまほつぬへはくさんそうた

旅志 富小路前大納言

あまはあてたて旅人とい人のあやしやみん

思志 同

あまはあ人といひのふあはらふはあひ

片思 為定相言

ふんせあつとくくろるあまとい人のえやハあひ

後志 六條前中納言

今も程さんはにぬといふよのころ後れあはけ

稀志 吉田前中納言

いふまは七月のふとらうと後れあはけ

舊志 彈正親王

今更おとあはといふあひとむい

久志 中侍前大納言

年ゆりし波の中あは後れあはけ

絶志 侍従中納言

此も此町の波はあさかへぬ中よむとあはれし

忘念

いふまじいおの朝端よけるまは人のためあるたれを

恨念

知すに恨もあはれしつらさうのけりし悔ふ

寄天念

祇壽丸

夕守はりの元ある心こそ我身あつても初志

寄日念

侍従中納言

昨日新しきも志しつらとあはれし初志ひよる

寄月念

中納言入道

あやもよふ人よはげしきまはれし初志の社月うけ

寄風念

御製

色もあふのふとく家の身と秋風ふらりなみさう那

寄雲念

中納言入道

よもよふ夕雲のあはれし初志のまおとく

寄煙念

中納言入道

ちもよふ煙のあはれし初志のまおとく

寄露念

右田中納言

清もあはれし初志のまおとく

寄雨念

中納言入道

あひかきもさるんはまきさるる身と志る神はあまのひま

寄霜恋

中納言入道

うらうらうらうらうらおはれ秋とてぬんとくくくくくくくくくく

寄雪恋

前夜大納言

ひらひらひらひらひらひらひらひらひらひらひらひらひらひらひら

寄山恋

中納言入道

あまのこもあまのこもあまのこもあまのこもあまのこもあまのこも

寄花恋

左大臣宰相

あまのこもあまのこもあまのこもあまのこもあまのこもあまのこも

寄杜恋

以通知長

あまのこもあまのこもあまのこもあまのこもあまのこもあまのこも

寄野恋

富小路左中納言

あまのこもあまのこもあまのこもあまのこもあまのこもあまのこも

寄園恋

寺製

あまのこもあまのこもあまのこもあまのこもあまのこもあまのこも

寄橋恋

左大臣宰相

あまのこもあまのこもあまのこもあまのこもあまのこもあまのこも

寄水恋

侍従中納言

あまのこもあまのこもあまのこもあまのこもあまのこもあまのこも

寄江恋

左大臣宰相

とつふあは波舟を遠よりいさかきを江舟へ分を移

寄川恋 中絶云入道

いぬはわたつをよめのかみもあうと身と川のせうは波

寄海恋 彈正親王

舞のよもんとは程あは海やあつた人とたろむのう

寄忠孝恋 同

とのひらやとことれたひもろをあふくあつたあま

寄忘孝恋

富小路前大納言

うたふのふらうまもあつたあつたあつたあつたあ

寄善恋

道我法系

つまよあは人の舞をも善あつたあ日守の柱うせとく

寄類恋

侍従中絶云

ういよあはたる中とろふはつたあねはとあつたあ

寄海松恋

中絶前大納言

あひあを神のみあつて燈あつたあ年八へあつた

寄松恋

侍従中絶云

遠くはあつたあつたあつたあつたあつたあつたあ

寄松恋

同

よとらう古川野へま松もまあひふとあつたあつたあ

寄相恋

神製

笑りもたつとさう申相の榮と花をみかへ人のらせありせり

寄端末恋

いづれも答れ端末のころとせしめしは神めもせし

寄端末恋

金さぬ名成りもよほ年ゆりてんをくもいんあつせし

寄雁恋

あつたふれぬは計里丸

寄鴉恋

我中たの海ひより道あり池乃らるる下はぬのゆし

寄鴉恋

つかりとやまはくと鳥羽をへるせり榮つとありせり

寄山鳥恋

あひれを山鳥はよのふとよきぬ中れ神とありて

寄馬恋

思ふまじのしほりも山鳥はいぬ色こそあつる

寄猪恋

我とよほりていふは神は物と秋乃庭はとまある

寄麻恋

そのけし物とあつぬゆりふとよきと小男麻はあ

寄雀恋

た大弁宰相

きみえいじとみひと人ともをゆるりてとてこころいん

寄雲恋

あまのめをたのむのがさあはれよこむるおのひあまを

寄我栞恋

くろくも我より人と恋をめでたきすむ虫と恋をそふ

寄玉恋

いくまの涙の玉をうきまみ消えりてはるのたのしみ

寄鏡恋

山をたのむよかろきまなみをあらふ人とこころいんをのふ

寄匣恋

をたははる逢ねもあふむくけのゆへに言も難逢ふやう

寄鬘恋

せこあまぬ神は涙のむろくかけをも恋したこころいん

寄本結恋

よるに我もこころいんのあまをむすひをそぬ契りよまよ

寄枕恋

とつあふもふるすめおほさる枕よふせて人とこころいん

寄席恋

をたつこころいんをそぬ契りよまよ

寄衣恋

富小路前中細云

うた中よとふのゆかたきき限のち、誰かにかきつたむらさ

ひやうき程やいの川が陸帯うちけりぬる人ありけり

寄信恋

富小路前中絶言

我ふ人ともみまふあふともうたおし教をうけりて

寄硯恋

道我法中

あきあたまもせも不現のなちふりたてをのりて

暮筆恋

侍従中絶言

いたつらにこそほしめぬあふとて候つけよとひやあふ

寄笛恋

前夜大絶言

あちねあふいとあふきて笛竹の聲たふさごとく

寄ら恋

中絶言大絶言

いそめあふいとあふ様ら我ふとも神さふ人さふ

寄家恋

中絶言入道

様ら心もむいさつ連ちとやといひあふ人さふ

寄扇恋

侍従中絶言

我中八柱あふとてあふとてあふとてあふとてあふ

寄鞍麻恋

為定中絶言

たぬとてあふとてあふとてあふとてあふとてあふ

寄舟恋

前夜大絶言

いづれもあはれに道はるゝおれ我身と今あまのすそ
寄烟急 侍従中納言

かくさあつと志まてあみ縄のあしは人とかげぬる
寄禮急 同

あけぬといひしものぞあつとささるる
已上三十四首 内清撰 陽歌九首 僻事 點十九首 為世
雜百二十首

名所山 市製
まこと白きうらに若くはうの山をちりくみる

名所岡 忠守朝長
いく幸り程もさう人若くせよ新やあひの是れおろえ

名所松 源三位
川こそ泉は松本を何とねつとぬさあはれ代をさる

名所杜 侍従中納言
物さるるさあはれ家のめくみあまは子枝よちえとあはれ

名所野 同
我乃のためしとみむさうのや松ゆくと志れ限りなけさ

名所京 六條前中納言
東路は返りたはすまて今もなうと志まうと

名所路 彈正親王
今も松みゆとさうと山若くすみれ代のおふ道

今名所稿 市製

智くは者あり此等ふくせつてふぬい志行うと

名所池

くみたるふれんやゆりえらかくる事なる大波のいけ

名所法 光吉

廣波乃流をうけて法のあま代までも君をよむん紀

名所沼 侍従中納言

名所沼のふりふり多を浅番の沼れあふふ

名所に 為定船長

うぬこふてと難波のあま代末葉は浦風を吹

名所海 富士路前中納言

ふんくむひのふれりけむいふせれ海のととこゆ歌

名所河 市製

駒とめし志もあまんちつてみかのかま川乃あれ志波

名所湫 光吉

世ゆも流るる松浦川七湫乃よとも末とふめし

名所湊 源三位

世とつる乃こまきま氣之ゆれみかをといはるみ人

名所海 後季

よこれ海や松のあふこまきまき夕白にとける天の橋を

名所湖 為明船長

う波や志ぶらう崎みさひし子代方ねはありぬく

名所浦 六條前中細云

いも子ぬ子の志はまは浦の入口乃波さすけ

名所漢 同

初とまるやといひくも山越したと川のくまは美砂地

名所坂 前藤大細云

旅衣波のこよふ小糸路乃大坂小坂ともよみく

名所町 大井宰相

よる波の音いりく次やそれほのまはきりぬき

名所崎 為定船長

いれまやれ崎小首子人し敷もろなくむかひく

名所崎 富小路前大細云

かこはまよせらる波はゆ日八日新をけつた川のしり

名所写 六條前中細云

うく月まらぬふるみしと平たちひとえはあると

名所田 富小路前大細云

ゆいあふ年とくし秘言とふくと田れサのゆくす念の秋

名所村 為親朝臣

すみのゆるえとそよ名はたつるむ井の村れやうりえは月

名所市 先名

今の市我危つる志中あふいし中さ名とるふと

名所都 侍従中細云

さ波や志此於ち物うぬ道と者日入ふ伊代はあふん

名所津 右光相

我天女くみも心とあふ道と秋津の鴨波の御妻

中細云 侍従中細云

志此名いそ道ぬまふかひとる者好まふこのの秘を六

中細云 中細云

初末と程といとけ旅の元好む駒はあふまうせと

中畫 左大弁宰相

今志と夕影まらと山とえん清あすしとあふ坂乃屋

中夕 中細云 入道

そこと志と里はる人の夕燈とらもとまうぬ旅乃宮

中相 御製

みりとも旅福の口原長門の志の系たるそあふ

中炎 同

初末といく越えん名福とあふ歌のあとの志と

中泊 左大弁宰相

うと枕波のこまろとあふ道とあふ初よりうふゆと

籍中里

中絶之入道

久しく日ゆくを限りに初きて里より久ぬ旅の志つて

籍中波

道我法布

おとつひのちのちとて先て未ハ浪のゆりくそ

籍中因

以通船長

なつと志のふははせし秋凡のいし身あむ志つては

籍中情

前後大絶云

日敷のこゆるしやふふとこゆるしやふふと

籍中後

同

らひ初の後となりにあまうふり初よりく初をそふ

籍中思

中絶前大絶言

あつて我々のことけしはあつて初め人々あつて

籍中激

前後大絶云

をさうり初をそふ旅衣初めつるはあつて

籍中別

忠守朝長

はしつるあつて代よ遠坂初めつるはあつて

籍中枕

中絶前大絶云

初めつるあつて代よ遠坂初めつるはあつて

籍中序

為冬

あつて初めつるあつて代よ遠坂初めつるはあつて

籍中衣

富小路前大納言

ひげさし小裁合身あぬ旅衣あつ山代まゝとて

籍中衣

同

あさむら湯の舟れまよまゝ志ぬとまりにぬる甲

籍中袴

佛製

けす又さあつ山と越すて妻共とあ入あひの

山家路

中津門前大納言

ゆささる子代の物なぬかひてはあつさるの舟

山家橋

吉田前中納言

なまこまゝしつれあえ山里あやうさるの谷の紫

山家衣

彈正親王

飛尾の山家衣の風をあへ子代あひなるを

山家庭

富小路前大納言

秋とておとあめまを成よるまうたあつさる

山家衣

同

なまこまゝしつれあえ人あつさるあつさる

山家衣

中津門前大納言

山里あつさるしつれあえこけさなつあつさる

山家衣

侍従中納言

山家衣あつさるあつさるこけさなつあつさる

山家鳥

山家鳥のうたをよみてはむらさき

山家出

山家出のうたをよみてはむらさき

山家歌

山家歌のうたをよみてはむらさき

田家春

田家春のうたをよみてはむらさき

田家夏

田家夏のうたをよみてはむらさき

田家秋

田家秋のうたをよみてはむらさき

田家冬

田家冬のうたをよみてはむらさき

田家風

田家風のうたをよみてはむらさき

田家雲

田家雲のうたをよみてはむらさき

田家煙

田家煙のうたをよみてはむらさき

中納言入道

中納言入道のうたをよみてはむらさき

六條兼中納言

六條兼中納言のうたをよみてはむらさき

前後大納言

前後大納言のうたをよみてはむらさき

中納言入道

中納言入道のうたをよみてはむらさき

中納言入道

中納言入道のうたをよみてはむらさき

田家雨

計里九

ほろろある小田村の早もるる雨小澁をよみて如く神の

田家露

為明神長

よもろくもあもあまの秋の田村の早もるる神を志あるる

田家雨

侍従中納言

りりせしみの早もるるもあまの早もるる田面の早もるるの早もるる

暁後

中侍内前大納言

暁ハおとろくもあまの早もるるもあまの早もるるもあまの早もるる

程後

道我法

こめもあまの早もるるもあまの早もるるもあまの早もるる

後驚

佛製

むあくして一程後ハおとろくもあまの早もるるもあまの早もるる

寄風を帯

先吉

風の音小秋ハおとろくもあまの早もるるもあまの早もるる

寄露を帯

佛製

あまの早もるるもあまの早もるるもあまの早もるる

後中懐旧

富小路前大納言

おとろくもあまの早もるるもあまの早もるるもあまの早もるる

懐旧澁

佛製

おとろくもあまの早もるるもあまの早もるるもあまの早もるる

独懐旧

御製

ワさしその悲しことハふる事にも若クも運ぬむその神の麻
若後懐旧

むしりし心ひおもむきむみふ君がめくまは程あふく
懐旧非一

身にすくく者といハ心ひおの敷よすことワ事を知ぬ我

寄月述懐

御製

あふめくむとをほの秋ことハ我身を川の月あふく

寄雪述懐

富小跡茶大細云

君が代はあふくまことよひも運七夕あふく

寄冥述懐

同

さみか代は今お板は冥かへさして、そんを乃神もくね

寄漱述懐

道我法系

さうさもとゆくとたのびる清あうさせふ志のび身とハあふ

寄木述懐

右田茶中細云

年月あふしにみくのこすくろくとさけの本こそ我云

寄茶述懐

左大弁宰相

ぬさあふおとられたの初末ハ非れぬく分はゆをせしをみれ

寄鳥述懐

六條茶中細言

こひはあふことあふかむ花をたあふとまよいたのこあにこと

寄虫述懐

侍従中納言

あひしほゆる時とあるや松虫其何よひあるは代のゆくこと
寄虫述懐 中納言前大納言

ゆきほゆるを此溪のたわくもがくまをぬもつたもく

寄鏡述懐

中納言入道

昔より洗らひうる世あれも思ひの教を我身ありける

伊勢

為明朝臣

君の代もあやぐ因形は柱をひくも形やまをん

石清水

富小路前中納言

君よめいむむとそとけし清水の神も昔世とたまちけん

平野

中納言前大納言

心ひゆるがれはあまれゆるる昔とけしめく鐘を

春日

中納言前大納言

今も形民の海と此煙まてほりるをそとけし我身ありける

大原野

吉田前中納言

君の代も紫りあつとをま日山志るもさく人か乃ゆへ

任者

前大納言

君の代をこそまもの心大原野たりとけし神はうけつ

任者

前大納言

任者此神もまららハあつたりとけし今もわたり

日名

富小路前大納言

北野

為定朝臣

北野の平の繩をさす世にけり

水津

侍従中納言

水津にむらとてくおほゆ

不殺生戒

富小路前大納言

うしとあまのけ縄を

不偷盜戒

為定朝臣

里くの人もあひ

不邪嬖戒

遠まんとあゆ

不妄語戒

侍従中納言

どのつとほ

不酤酒戒

侍従中納言

漱みうる

不説四衆過罪戒

道我法師

ことの禁

不自讚毀他戒

同

我者れ一

不憚食戒 道我法布

あつと今存の機乃一枚とあるといふ人おぼし
不聴志戒 佛製

消福と富士の標は云々のむねはあひはたし
不憚三聖戒 凡先者

高野山あつたる多はまてしみのつとけあはせ
寄天祝 大弁宰相

足戸あけ者必命もあつたおさぬ代の月日之を
寄日祝 富士路前大納言

おろけえとこれ山の朝日影のえはせとてとせらふ

寄雨祝

侍従中納言

乃くあま六日数のまふゆのあめくたふは海よなちあん

寄國祝

為冬

いふつらと民たまくもさうふんふゆさうあつた代をまらえて

寄都祝

富士路前大納言

君よこそとあつたふゆあつたまらるる花の朝は万代りる

寄道祝

為定朝臣

交鳴のたさうとあつたまらるる君と祚はたさうあつた

寄松祝

富士路前大納言

君よこそとあつたまらるる君と祚はたさうあつた

寄竹祝

六條中納言

我无此方代妙之竹のよれくもありしも法之人のこ

寄菊祝

先若

西川や初葉此あはれ之縁しも子世とて繋るる菊乃元夜

寄無祝

右田中納言

名み世に無此尾山のひあるとく万代も無此まふく

已上十八首此内清撰湯點七首僻業點

私云

勅點分百五十九首於別所弟子被添夜筆其内

五十二首有清合點清撰是也依書寫之煩加兩

點半

藤原相點之百五十八首幸為墨點勅點為墨點
之間以朱替之

元亨三年七夕於龜山殿者之已一點始之黄昏詠

沈素燭以後春部被講講師經季及半更各退此九日

被下短尺於後大納言續進之十三日平陪清和

清書之十六日為沙使持向丞相亭勅定云續進之

間被著名不依貴賤可被點進之中被作下云先

是勅點百五十九首別有清書寫此内清撰湯點五

十二首也彼清和子不可及荒涼之披露由雖有沙

沙法依有披閱之煩移加勅點於此本輒莫免許

卷百六十六

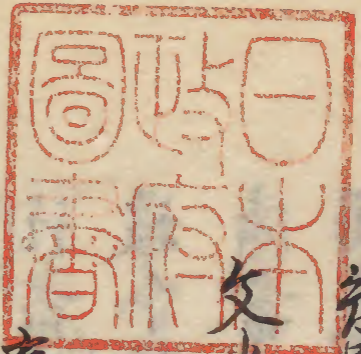
七十三

外見而已

光吉

并見點心本之重以類本可考付也

文安四年三月十七日書寫之訖



市龜山及七百首依五類本不能授也

群書類從卷第百六十六

